

「今と未来」

富山県立砺波高等学校一年 西尾 優咲

学校が終わった後の放課後や、部活終わりに利用する高校の近くにある市立図書館。豊富な本の数。屋外の暑さから癒しをくれるエアコンの効いた快適な空間。綺麗に整備された机や椅子。高校生になってよくお世話になっている場所には私たちの多くの税金が使われていると気づかされた。それと同時に私が過ごしやすい環境で物事に取り組むことや学べることへの感謝が込み上げてきた。私の身のまわりにあふれている税金の一つ一つに目を向け、感謝できるようになりたいと思う。

コンビニやスーパーなどで物を買う、つまり税を払っているときはそれらがどのように使われているのか考えることはなかった。しかし、自分が払う税金でこの世界の誰かを幸せにできていると思うと私も幸せになる。今防衛費増税などに関するニュースを目にすることが多い。正直、「増税」という言葉に対してマイナスなイメージしかなかった。けれども、払う税が多くなればなるほど、幸せにできる人が多くなるという考え方もあるのかもしれない。

さらに考えてみれば、今まで私の人生は税金なしでは成り立っておらず、税金とはこれからも付き合い続けなければならないものだ気づかされた。日々の生活と税金は、切っても切り離せない関係にあるといえるだろう。今の自分があるためにいくら税金が使われてきたのか興味を持ち、調べてみたところ、義務教育期間の九年間では、一人当たり約八百四十五万円が使われているそう。今まさに自分の立場である高校生には三年間で約二百七十三万円もの税金が使われていると知ることができた。高校生活を送る際、心に刻んでおきたいと思う。教科書や授業で使う道具などはもちろん、目に見えてはいない水道代や電気代なども税金で賄われており、どれほど今まで税金に支えられてきたものなのかと実感させられた。これまで税金に支えられ、多くの恩恵を受けてきたということは次は自分が、未来の子供のために納税をするということを忘れてはならない。高校を卒業するときには十八歳であり、成人の仲間入りである。人によっては住民税、所得税といった自分には程遠い存在だと思っていた税金を納める必要もあると知った。

このように税金はあらゆる形に変化しながら、自分を含めた社会全体に幸福をもたらしてくれるものである。税によって支えられている今の環境に感謝し、未来の子供たちへの世代へとバトンを繋いでいきたい。

今日も私の生活に関わる費用を納めてくださった方、ありがとうございます。